

2020年度NPO法人とちぎ協働デザインリーグ
事業報告書

2020年4月1日～2021年3月31日

2021年3月31日

総 括

2020年事業報告の総括

1 概要

2020年度当初の非常事態宣言、暮れから2月にかけて栃木県も含む非常事態宣言が発せられるなどの1年間をとおして異常事態が続く中で、ぽ・ぽ・らの管理運営を行った。

2 新型コロナウイルス感染症への対応

パンデミック下の危機管理(利用者及びスタッフの感染防止対策)を最優先した。

- ・公民館のガイドラインなどを参考に具体的な感染防止策をとった。
- ・事業については、感染可能性の低い方法へ組み替えた。
- ・特に内部管理や事業の両面でオンライン化を進めた。
- ・多くの会議、イベント等の関連事業が中止、延期となった。

総 括

3 コロナ禍でのNPO活動上の課題について、取り組んだ。

(1) 県内NPO等の現状把握に努め、対応策を模索した。

(アンケートを実施した。)

支援ニーズとして「情報 資金 活動の不安解消」が想定された。

(2) 情報収集と発信

- ・先行き不透明な中でニーズが大きかった情報の収集発信に力を注いだ。
まとめサイトを作成し、迅速に処理した。

日々制度の新設、修正があり、情報メンテナンスの負担が大きかった。

- ・全国的なNPOの支援組織の動きに参加し、情報収集や連携に努めた。

(3) 資金情報案内と再開準備情報

資金不足以上に、コロナへの不安感や対策への自信のなさから萎縮して
ることも想定される。資金情報への案内と再開の準備について、積極的に取り
組んだ。(安全対策とオンライン化の支援)

総 括

(4) 県との連携

4月以降感染状況の変化や防止策や支援策の動向を踏まえ、情報交換や意見交換を日常的に行った。

4 支援のスタイル

- ・ぽぽらの新年度事業計画では、現地現場へ出て行くスタイルの支援活動（アウトリーチ型）を目指したが、コロナ禍のため直接面談を回避することが求められ、消極的な取組となった。
- ・前期の後半からは、徐々に現地訪問型の事業を増やしてきたが、秋以降の感染拡大に伴い、限定した動きとなった。
- ・市町センターとの協力連携を重視し、少人数開催の現地開催型の出前講座や個別相談会に力を入れ、一定の成果もあった。しかし、後期の感染拡大状況から中止になるものも発生した。

5 その他の課題

・スタッフの専門性の向上

オンライン化のため選択肢が増えた。スタッフの希望やぽ・ぽ・らの必要性から研修機会を増やすことができ、資質向上に寄与した。

・市町センターとの連携強化

市町センター連携事業を増やし、センターとの連携強化を試みたが、新型コロナウイルスの「三密」回避の配慮のため、不十分であった。

1 とちぎボランティアNPOセンター 管理運営業務

1 センター運営の基本方針

■ 事業の方向性

(1) **伸ばす** 次代のNPO担い手育成(エンパワーメント)

- ・NPO活動の停滞を打破するため、きめ細かな相談や体系的な研修事業を通じてマネジメント人材を育成

(2) **つなぐ** 市町センターとの連携、多様な主体による協働推進

- ・市町センターは地域密着の支援、場所を活用した支援、地域内協働などに適性あり。
- ・本法人に蓄積されたノウハウや人的情報、支援情報などの提供、連携向上のための積極的訪問と支援
- ・県域ネットワークの強化による多様な主体の協働推進、NPO・市民活動団体の支援拡大

(3) **育む** 社会貢献活動・地域社会活動への参加促進

- ・社会貢献活動への参加減少の現状の中、市町センター等の関係機関との連携協働により、県民の参加促進

2 業務一覽

(1) 相談支援業務



(2) 施設運営・受付対応業務



(3) 情報収集・発信業務



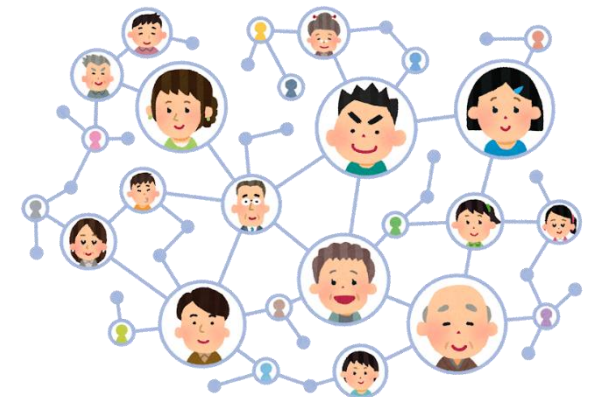
(4) NPO担い手育成業務



(5) 市町市民活動 支援センター支援業務



(6) ネットワーク運営業務



3 事業内容

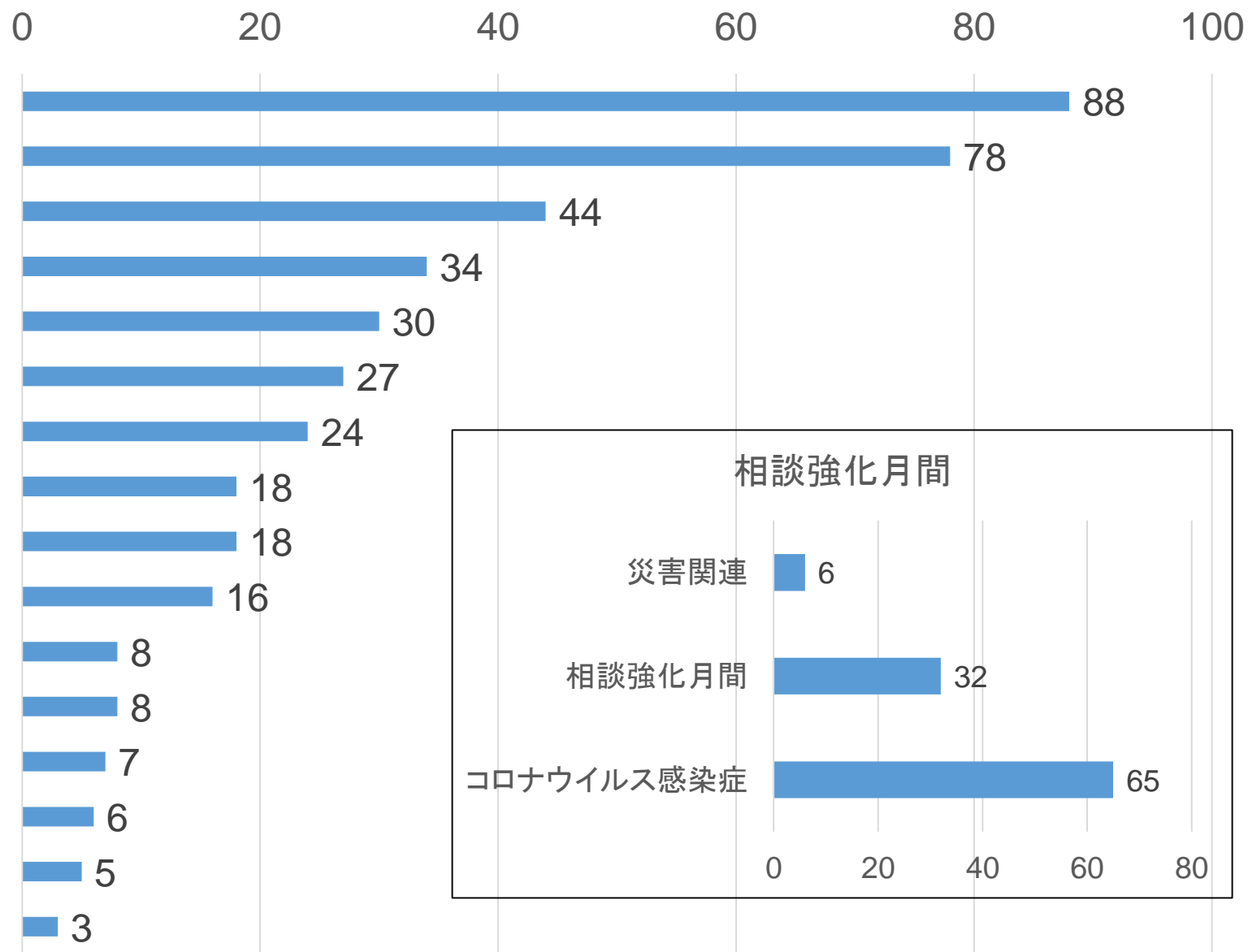
(1) 相談支援業務

(1) 相談支援業務

<p>目的</p>	<p>個人の社会貢献活動参加やNPO等の設立、運営等に係る課題について助言、コーディネートを行い、県内のNPO活動の活性化を図る。</p>		<p>④「相談強化月間」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業報告相談月間(2020年4～5月):30件 ・コロナ感染症相談:65件 ・総会準備・事業報告書等相談月間(2021年3～5月) <p>総会に向けて事業報告作成相談</p> <p>⑤相談対応力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ間でのケース会議の実施 <p>週一回のスタッフミーティングの中で実施(8月25日より)</p>
<p>内容</p>	<p>①運営スタッフによる相談・コーディネート</p> <p>ア)相談件数:414件(11,287分、約188時間) うち「情報照会」が88件で最も多い</p> <p>イ)専門家と連携したアウトリーチ型支援 労務相談に係る専門家派遣 日 時:2020年8月26日(水) 会 場:NPO法人出会いの森管理協会</p> <p>②専門家による相談・コーディネート</p> <p>ア)NPOの会計・税務・労務相談会inさくら市 日 時:2020年9月16日(水)13:30～16:30 会 場:さくら市市民活動支援センター 講 師:税理士 大森尚子氏 社会保険労務士 谷田部浩史氏 参加者:会計・税務相談(2団体)、労務相談(3団体)</p> <p>イ)NPOの会計・税務・労務相談会in小山市 日 時:2021年1月20日(水)13:30～16:30 会 場:小山市市民活動センター 講 師:税理士 鈴木圭吾氏 社会保険労務士 谷田部浩史氏 参加者:会計・税務相談(2団体)、労務相談(2団体)</p> <p>③協働の理解促進を図る講座等への講師派遣 (出前講座) ※詳細は「出前講座」に掲載</p>	<p>成果・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での相談は、初めの緊急事態宣言が発布された後、急増したが、秋を迎えるころには、支援金等の情報も発信することにより、収束していった。 一方、そこから派生する形で、非対面型の事業実施方法(オンライン化)は増加の傾向があり、専門家による相談コーディネートでも、非対面型のノウハウが活用された。 ・今年度は、相談内容等をケース会議のテーマにできた件数が少なく、ノウハウ共有に重きを置いてしまった。次年度は、相談のノウハウ共有も強化していきたい。

①ー1 運営スタッフによる相談・コーディネート

相談種別



② 専門家による相談・コーディネート

会計税務・労務相談会inさくら市



会計税務・労務相談会in小山市



(2) 施設運営・受付対応業務

(2) 施設運営・受付対応業務

目的	来館者が、快適かつ安全安心に施設設備を利用できるように努め、社会貢献活動拠点機能の充実を図る。																				
概要	①安全管理及び省エネ化 ②施設・機器・物品等の管理 ③利用団体の登録、各種利用受付、メールボックス、ロッカーの貸出				<ul style="list-style-type: none"> ・研修室、貸出備品、ネットワーク機器管理 ・館内掲示物管理(広報、お知らせ、注意喚起等) ・ロッカーの管理、施設利用のサービス提供 ・利用者の受付、対応、研修室、印刷機器等の利用案内(随時) ・メールボックス、ロッカー等の利用管理 (随時) ・メールボックス、ロッカー等の登録更新 (6月) ・利用団体の情報登録、変更等の管理 (随時) 																
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者数 12,662名(前年比-6488) ・研修室利用者数 2,431名(前年比-2760) ・研修室利用件数 361件(前年比-335) ・作業室(印刷機)利用件数 47件(前年比-69) ・センター利用登録団体 417団体(前年比+17) ・メールボックス利用登録数: 21件(前年比-5) ・ロッカー利用登録数 37件(前年比-3) <table border="1" data-bbox="161 1011 1025 1286" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">項目</th> <th style="width: 20%;">2020年度</th> <th style="width: 20%;">2019年度</th> <th style="width: 45%;">比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来館者数</td> <td>12,662</td> <td>19,150</td> <td>43%減</td> </tr> <tr> <td>研修室利用者数</td> <td>2,431</td> <td>5,191</td> <td>63%減</td> </tr> <tr> <td>作業室利用者数</td> <td>47</td> <td>116</td> <td>59%減</td> </tr> </tbody> </table>			項目	2020年度	2019年度	比較	来館者数	12,662	19,150	43%減	研修室利用者数	2,431	5,191	63%減	作業室利用者数	47	116	59%減	内容	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症予防の貸館対応 <ul style="list-style-type: none"> ・4月18日から5月11日まで閉館 ・5月19日から来館者の体温測定開始、来館者名簿の収集開始 ・8月6日全研修室および2階事務室に飛沫防止パーテーションを設置 ・コロナの状況に応じ、定員の50%減員や新規予約受付休止等 ・新型コロナウイルス感染症予防に関する啓発ポスターの掲示
項目	2020年度	2019年度	比較																		
来館者数	12,662	19,150	43%減																		
研修室利用者数	2,431	5,191	63%減																		
作業室利用者数	47	116	59%減																		
				成果・課題	新型コロナウイルス感染拡大防止のための検温及び来館者名簿提出について、好意的に協力を得ることが出来た。感染防止のための消毒については、おおむね協力を得られた。																

(2) 施設運営・受付対応業務

2階受付 パーティション



屋外掲示板



(3) 情報収集・発信業務

(3) 情報収集・発信業務

目的
 県内NPO等の活動や全国の先進事例、行政、企業等による支援情報等を収集し、ホームページやSNS、情報誌など、発信に適した媒体を活用し発信を行う。

内容

① NPO、ボランティア支援のための情報収集・提供（イベント、助成金等）、団体情報、および活動情報等の展示

ア)「新型コロナウイルス感染症に係る栃木県内NPO等支援のためのアンケート」実施
 調査期間:2020年4月25日(土)～5月7日(木)・イ)「栃木県内NPO等の新型コロナウイルス感染症の感染拡大への対応及び影響について」アンケート実施
 調査期間:2020年8月1日(土)～8月14日(金)

② ホームページ・SNSの充実(ブログ、フェイスブック等活用)・フォロワー、「いいね」を増やす取組

	2020年度	前年度	比較
HP閲覧数	44,013	24,097	83%増
ブログ閲覧数	87,764	83,874	10%増
ブログ投稿数	86	61	41%増
Facebook閲覧数	30,054	21,096	42%増

HP閲覧数、ブログ投稿数、FB登録者数の増加など、ネットによる情報発信強化の成果が出た。

内容

③ センター情報誌の編集発行(年2回、各3,000部)
 ・夏号 令和2年6月発行 特集:コロナ禍における社会貢献活動を探る
 ・冬号 令和2年12月発行 特集:知らせたいことは何ですか? #市民活動に使える情報発信の小技ご紹介

④ メールマガジンの編集発行(32回発行)

	2020年度	前年度 3月末	比較
登録者数	783	1,347	42%減

減少理由:登録データの見直しを行ったため

⑤ センター案内パンフレットの作成・配布
 ⑥ 図書等資料の管理、貸出
 新型コロナウイルス感染症対策として一時貸出を休止したが1月22日再開した。
 ⑦ イベント等への参加による広報・宣伝活動(県民の日、シルバー大学校等)
 新型コロナウイルス感染拡大防止のため様々な活動が中止またはオンライン開催となり広報活動の機会が減少。開催事業チラシの発送による広報に努めた。

成果・課題

管理運営団体であるとしぎ協働デザインリーグHPに「NPO等のための新型コロナウイルス感染症対策まとめサイト」を作成。ぽぽらHPからリンク掲載し、迅速かつ正確な情報発信に努めた。
 メールマガジンは、臨時号にて適切な情報発信に努めた。

(3) 情報収集・発信業務

情報誌ぼ・ぽ・らmagazine

VOL. 31 [2020 Winter]



特集 知らせたいことは何ですか？ #市民活動に使える情報発信の特技ご紹介！

VOL. 30 [2020 Summer]



特集号 コロナ禍における社会貢献活動を探る

VOL. 29 [2020 Spring]



特集 令和元年東日本台風被害とその対応

VOL. 28 [2019 Summer]



特集 ～一人にさせない～子ども食堂の今

(4)NPO担い手育成業務

(4)NPO担い手育成業務

①「ぽぽら市民活動大学校」の開講

■ 目的

NPOの中核的人材を育成するとともに、より多くの県民が社会貢献活動への関心を高め参加する機会を創出する。

■ 実績 2020年9月開講 10講座実施

各分野を網羅的に学ぶコースを設け、組織マネジメントや事業運営、協働、コーディネート等の力を育み、組織の中核を担う人材を養成する。また、社会参加のすそ野を広げるため、受講者が幅広いメニューから自由に選択し、個別の講座を受講することも可とした。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を考慮の上、事業を実施した。

こんな方に・・・	おすすめ講座			
I 団体のマネジメント力を向上したい (マネジメントコース)	1 NPOのための労務 &働き方改革	2 思いをつなぐ「ミッション」と 達成へと導く「ビジョン」とは？		
II 企画力・実践力を向上 したい (オペレーションコース)	1 NPOの資金調達	2 活動計算書の作り方	3 市民活動 コミュニケーション	
III 協働について知りたい、 連携して事業をしたい (地域協働推進員養成コース)	1 事例で学ぶ とちぎの協働 事前学習inぽ・ぽ・ら	2 事例で学ぶ とちぎの協働 現地実習in鹿沼市	3 事例で学ぶ とちぎの協働 現地実習in市貝町	4 事例で学ぶ とちぎの協働 全体まとめinぽ・ぽ・ら
IV 社会の動きやニーズを 知りたい	1 コロナ時代のNPO・ ボランティア 事業の開き方			


(4)NPO担い手育成業務

I-1オンラインセミナー～NPOのための労務&働き方改革～(ぽぽら市民活動大学校)

<p>目的</p>	<p>NPOには、常勤職員、非常勤職員、有償ボランティア、無償ボランティアなど、様々な人材が関わっている。 これらの人材とNPOとの労務関係においては、雇用形態に応じた適切な労務管理、またはボランティアとしての管理を行う必要がある。また、現在、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、テレワーク導入などの働き方改革の必要性が高まってきている。そこで、栃木働き方改革推進支援センターとの共催による労務基礎講座を開催し、NPOのマネジメント力の強化を図る。</p>	<p>内容</p>	<p><参加者の感想></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初心者のため、説明が分かりやすかった ・オンラインだと参加しやすい ・今後役に立つ <p>※NPO法人いきいき介護・シャロームからの質問(理事が加入できる労災保険制度)については、別途、個別に相談に応じていただいた。</p>
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講師から、働き方改革の全体像及び労働基準法の基礎、36協定について、従業員に関わる保険(労災保険雇用保険、健康保険、厚生年金保険)等について説明いただいた後、参加者との質疑応答を行った。 ・講師(栃木働き方改革推進支援センター)と事務局(ぽぽら)、参加者(個別の場所)をつないでZOOMにより進行したが、通信障害等は起きなかった。 <p>①日時:2020年11月25日(火) 13:30~14:30 ②会場:オンラインZOOM(ぽぽら) ③講師:栃木働き方改革推進支援センター 専門家(社会保険労務士) 時田 英和氏 ④参加者数:6名</p>	<p>成果・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の説明が的確で、労務や働き方改革について参加者の理解が深まった。 ・中間支援センタースタッフは、オンラインのほうが参加しやすいようである。 ・質疑応答の際、講師が「NPOリーダーのための15の力」を引用するなど、NPOについて理解を深めている姿勢が良かった。 ・NPOにとって、労務管理は後回しになりがちのため、引き続き普及啓発していく必要がある。

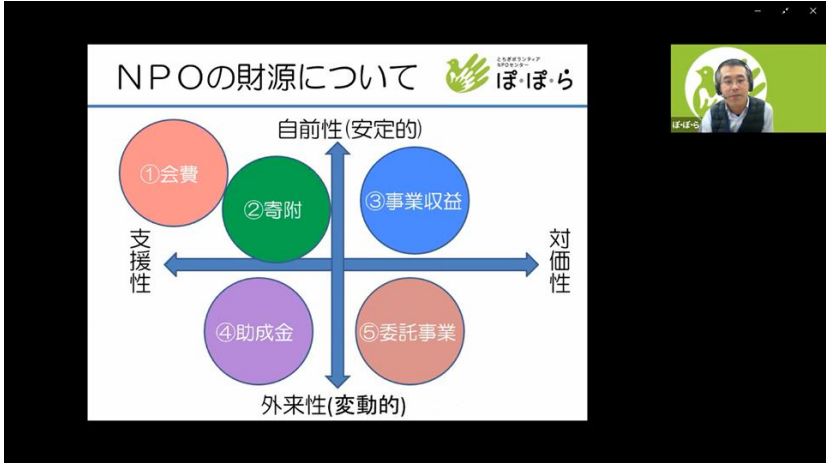
(4)NPO担い手育成業務

I-2 思いをつなぐ「ミッション」と達成へと導く「ビジョン」とは？（ぽぽら市民活動大学校）

<p>目的</p>	<p>社会貢献活動の担い手としてNPOへの期待がますます高まる中、ミッションやビジョンを明確に掲げることは組織にとっても社会全体にとっても重要な意味をもつ。メンバーの高齢化や、コロナ禍の先行き不透明な状況にある団体にとって、今はまさに活動を振り返り組織強化を図る良きタイミングともいえる。そこで、このような時代の流れをチャンスと捉え、何のために活動するのか、どのようにそれを成し遂げるか、関わる人たちをどのように巻き込むかなどを再認識し、団体運営の組織強化と持続的成長を目指すことを狙いとする。</p>	<p>大切さを学んでもらった。団体内で繰り返し対話の場を設け、丁寧にミッション・ビジョンを描き共有したこと、活動に参加していただくことで多くの方との共感とつながりを広げていったことなど、どのようにしてビジョンを実現したかの軌跡を具体的に紹介し、組織の持続的成長のポイントをご教授いただいた。</p> <div data-bbox="1207 546 1984 861">  <p>講義の様子</p> </div>
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日時:2020年12月15日(火) 13:30～15:00 ・会場:ぽ・ぽ・ら ・講師:NPO法人わたらせ未来基金 理事長 作新学院短期大学ボランティアセンター センター長 青木 章彦氏 ・参加者:12名 ・内容: ①「特定非営利活動法人わたらせ未来基金」とは ②「特定非営利活動法人わたらせ未来基金」の目的 ③ビジョンとミッションの模式図 ④湿地の[保全・再生]で活動をつなぐ ⑤活動紹介 <p>「渡良瀬遊水地にコウノトリを呼ぼう！」のビジョンを描き、活動を展開しているNPO法人わたらせ未来基金の青木理事長のこれまでの活動を通じ、ミッション・ビジョンの</p>	<p>成果・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者からは、「事例がわかりやすかった。」、「課題を解決していく進め方が参考になりました。」、「ミッション・ビジョンの共有と様々な人たち(団体)と連携することの大切さを学んだ。」などの声をいただいた。 ・事例を通して、自団体のミッション・ビジョンや活動への気づきと振り返りのきっかけにさせていただいた。 ・自団体のミッション・ビジョン検討の具体的手法を伝え、実際に自団体に置き換え、振り返りと実践につなげてもらうところまでできるとよかったと感じた。 ・コロナ禍におけるリアル開催の集客が困難であった。

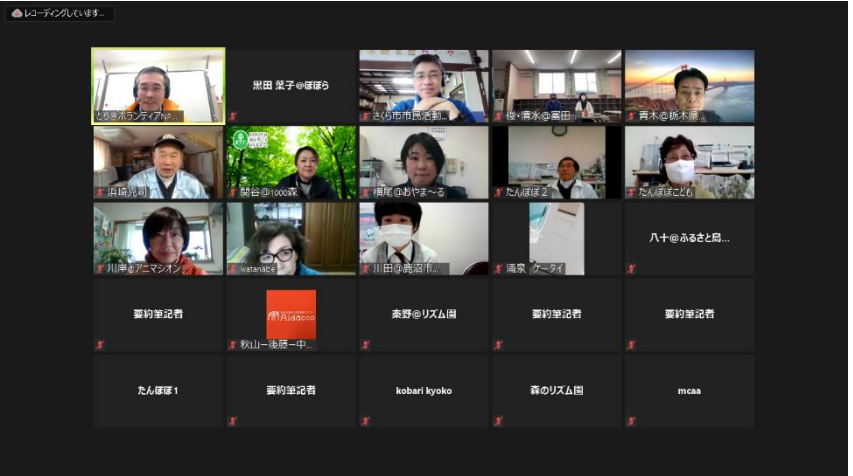
(4)NPO担い手育成業務

Ⅱ-1 NPOの資金調達(ぽぽら市民活動大学校)

目的	社会貢献活動の現場では、事業対価として資金調達できる機会は少なく、参加と共感による支援性の資金調達も重要である。また、今年度はコロナウイルス対応等に配慮しながら事業を行う必要があるため、これらの支援策を講じ実務的に役立つ内容とする。	内容	
内容	<ul style="list-style-type: none">・日時:2020年12月11日(金) 13:30~14:30・会場:オンライン・講師:とちぎボランティアNPOセンター ぽ・ぽ・ら コーディネーター 町田 英俊・参加者:11名 <p>①資金調達とは何か? ②NPOの収入の特性及び県内の現状と全国の傾向 ③会費・寄付金の集め方 (事例紹介)</p> <p>NPOにとっての資金調達と財源構成、ドナージャーニーマップ(認定ファンドレイザー池田氏作)を使用したの、資金調達の考え方等を伝えた。また、最近の傾向として、コロナ禍の影響や寄附キャンペーンについてお伝えした。</p>		成果・課題 <p>考え方や総論等は、オンラインでも伝えることは可能であると感じた一方、伝わり具合が実感できず、力の入れ具合に苦労した。</p> <p>助成金の説明や、ファンドレイジング、寄附キャンペーンなど、具体的な部分と両輪で進められるといい。</p>


(4)NPO担い手育成業務

Ⅱ-2 活動計算書の作り方(ぽぽら市民活動大学校)

<p>目的</p>	<p>多くの法人が事業年度末を迎える時期に合わせ、所轄庁に提出及び、関係者等に縦覧する書類の一つである、活動計算書に焦点を当てその作成方法や考え方を学ぶ機会として開催する。</p>	<p>内容</p>	
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日時:2020年2月26日(金) 13:30~14:30 ・会場:オンライン ・講師:とちぎボランティアNPOセンター ぽ・ぽ・ら コーディネーター 町田 英俊 ・参加者:21名 ※新たな取り組みとして、要約筆記支援を導入した。 ①NPO会計の基礎 ②日常業務 ③事業費と管理費の考え方(分け方) ④人件費とその他経費の考え方(分け方) ⑤NPO法人が作成する会計書類等について <ul style="list-style-type: none"> ・会計報告は現在の利害関係者はもちろんのこと、未来の利害関係者に向けて行うものである。そのために分かりやすい説明が必要。 ・日常の管理の注意点 ・費用の按分の考え方(事業費・管理費、人件費・その他経費) ・活動計算書・注記の書き方、貸借対照表の記載方法 	<p>成果・課題</p>	<p>会計に係ること、事業報告に係ることは、コロナ禍でも、変わらずニーズがあり、テキストを整備することで、オンラインでも伝えることが出来ると実感した。</p> <p>アンケートより 大変満足71%、やや満足28%</p> <p>受講者の希望により、要約筆記者の協力を得て実施できた。今後も、セミナーのバリアフリー化も念頭に置いて、実施したい。</p>

(4)NPO担い手育成業務

Ⅱ-3 市民活動コミュニケーション「どうしてわかってもらえないんだろう・・・？」を紐解く、仲間づくりの視点(ぽぽら市民活動大学校)

<p>目的</p>	<p>団体が活動を持続・成長させる上で、メンバー同士やステークホルダー、協働相手などとの良好な関係をつくることは非常に重要である。当セミナーではコミュニケーションに着目し、自身の意識を「伝えようとするのではなく、他者を理解しようとする」ことに変えることで人間関係がより良くなるということの気づきを得、今後の活動における仲間との関係性づくりに活かしていただくことを狙いとする。</p>	<p>内容</p>	<p>理解する。 ・他者を理解することは自己を理解することに他ならない。</p>  <p>講義の様子</p>
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日時:2021年2月5日(金) 13:30～15:00 ・講師:白鷗大学教授 小山市市民活動センター センター長 結城 史隆氏 ・開催方法:オンライン ・参加者:10名 ・内容: <ol style="list-style-type: none"> ①「相手を理解する」ことはコミュニケーションの問題 ②食文化の違いは思い込みによる価値観の違い ③コミュニケーションの仕組み ④相手を理解するためのコミュニケーションの手法 ⑤結論 <ul style="list-style-type: none"> ・自分と価値観の違う他者と接する機会を増やすこと。 ・われわれは他者を不完全にしか理解できない。すべてのものに価値があること、コミュニケーションは状況により変わること、コミュニケーションは主観的であることを 	<p>成果・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者からは「環境によって、その人の好み、好きな食材、人格などに影響が出ることが知ることができた」、「ぜひ今回の講座の第2弾として、実際に活用できる方法などの講座を希望します」、「今度は現地で受講したい」などの声をいただいた。 ・相手を理解するためには、自身のものの見方、捉え方を変えること、そのためにも自分と価値観の違う他者と接する機会を増やすことが有効であることなど仲間との関係性づくりのポイントを理解していただけた。 ・自団体の活動のヒントや地域活動における課題の解決方法につながるような具体的なコミュニケーションの手法を習得するための、実践的な講座をリアルで実施する。

(4)NPO担い手育成業務

Ⅲ 地域協働推進員養成講座「事例で学ぶとちぎの協働」(ぽぽら市民活動大学校)

目的	県内において、多様な主体による協働の取組みは、地域課題の解決に大きな成果を上げている。こうした取組みをさらに推進し、協働で創る共助社会を目指していくためには、多様な主体間を「つなぐ」人材を養成していくことが重要である。本講座では、地域課題解決のための「つなぐ」役割の重要性を再認識し、地域で協働を推進する人材づくりを目的とする。	
内容	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、第2回・第3回講座を急ぎよオンラインに切り替え、第4回を追加開催した。各参加者の「協働アクションプランシート」を記録としてまとめた。</p> <p>1 主催:とちぎボランティアNPOセンター 2 協働:一般社団法人とちぎ市民協働研究会 3 日時 (1) 2020年12月20日(日)13:00~16:00 (2) 2021年 1月17日(日)13:00~15:00 (3) 2021年 1月24日(日)10:00~12:00 (4) 2021年 3月20日(土)13:30~15:00 4 講師:一般社団法人とちぎ市民協働研究会 代表理事 廣瀬隆人氏、専務理事 土崎雄祐氏 5 会場:ぽ・ぽ・ら、オンライン 6 参加者:延べ49名</p>	内容 ■第1回講座 事前学習「事例で学ぶとちぎの協働」 ①日時:2020年12月20日(日)13:00~16:00 ②会場:ぽ・ぽ・ら ③講師:(一社)とちぎ市民協働研究会 代表理事 廣瀬隆人氏、専務理事 土崎雄祐氏 ④内容 ・協働についてレクチャー、現地実習先の概要説明 ・グループで調べる、発表、振り返り ⑤参加者:14名 ⑥まとめ等 ・協働とは、人と人がつながること、それが地域づくりにつながる。 ・自主学習では、参加者が積極的に情報を検索し、グループで話し合い、多様で鋭い質問事項が数多く出された。自分たちで調べるという主体的な形が学びの一助となり、交流にも繋がった。 ■第2回講座 現地実習in鹿沼市 「つなぎ手のノウハウを学ぶ」 ①日時:2021年 1月17日(日)13:00~15:00 ②会場:オンライン ③講師:NPO法人福聚会 法人運営統括責任者 石綱秀行氏 スマイルきくさわ(第2層協議体会長) 菊沢地区民児協 民生委員 紺野勝寛氏

(4)NPO担い手育成業務

Ⅲ 地域協働推進員養成講座「事例で学ぶとちぎの協働」(ぽぽら市民活動大学校)

<p>④コーディネーター:(一社)とちぎ市民協働研究会 代表理事 廣瀬隆人氏、専務理事 土崎雄祐氏 ぽ・ぽ・ら コーディネートリーダー 町田英俊</p> <p>⑤内容:取組説明、意見交換、協働についてのまとめ</p> <p>⑥参加者:11名</p> <p>⑦まとめ等</p> <p>・自分たちの活動をいかに広げていくか、社会課題化していくかという点で、困ったことを外に求めていくところが肝。協働においては「助けて」と言える関係性が重要。</p> <p>■第3回講座 現地実習in市貝町「協働のしかけ方」</p> <p>①日時:2021年1月24日(日)10:00~12:00</p> <p>②会場:オンライン</p> <p>③講師:NPO法人オオタカ保護基金 サシバの里自然学校 校長 遠藤 隼氏 NPO法人オオタカ保護基金 代表 サシバの里協議会 事務局長 遠藤孝一氏</p> <p>④コーディネーター:(一社)とちぎ市民協働研究会 代表理事 廣瀬隆人氏、専務理事 土崎雄祐氏 ぽ・ぽ・ら センター長 赤羽幸雄</p> <p>⑤内容:取組説明、意見交換、協働についてのまとめ</p> <p>⑥参加者:15名</p> <p>⑦まとめ等</p> <p>・サシバと町民、環境と経済、人間と自然、都市と農村などの一見二項対立的な因子を協働させる。里山の思想とつながり、新しい価値が生まれる。</p>	<p>■第4回講座 全体まとめ「事例で学ぶとちぎの協働」</p> <p>①日時:2021年3月20日(土)13:30~15:00</p> <p>②会場:ぽ・ぽ・ら</p> <p>③講師:(一社)とちぎ市民協働研究会 代表理事 廣瀬隆人氏、専務理事 土崎雄祐氏</p> <p>④内容:第1~3回講座の振り返り、まとめ 参加者間の交流 「協働アクションプランシート」の作成・提出</p> <p>⑤参加者:9名</p>
<p>内容</p>	<p>内容</p> <p>成果・課題</p> <p>・一部講座をオンラインに変更したため、直接現地に出向いての実習ができなくなったが、講師や現地実習先との連携により、充実した講座内容となった。</p> <p>・タイプの異なる2つの協働事例を紹介することで、参加者が今後活動を進めていく上で、大いに参考になったものと思われる。</p> <p>・急きょオンラインに変更することを想定して、あらかじめ開催ノウハウを身に付けておく必要がある。</p> <p>・県地域振興課から各市町地域振興担当課に周知を図ってもらったところ、地域おこし協力隊員5名が参加するなど、新たな支援対象の開拓につながった。</p>

(4) NPO担い手育成業務

Ⅲ 地域協働推進員養成講座 (ぽ・ぽ・ら市民活動大学校)

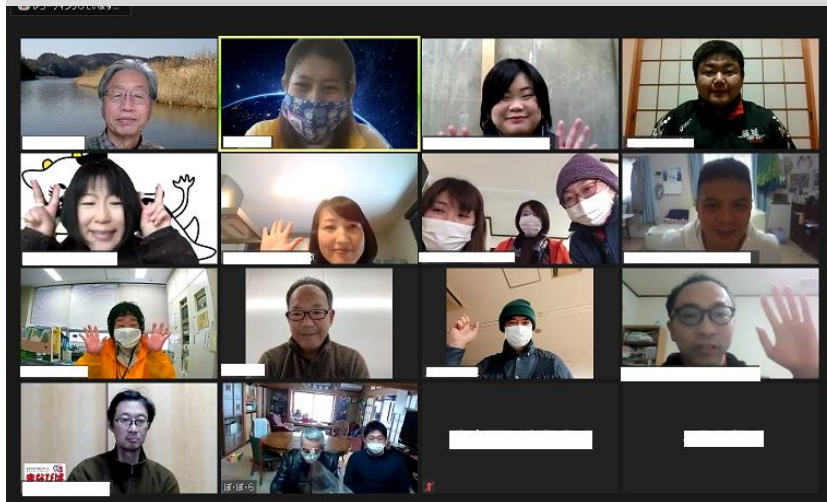
第1回講座 事前学習



第3回講座 現地実習in市貝町



第2回講座 現地実習in鹿沼市




第4回講座 全体まとめ



(4)NPO担い手育成業務

IV-1 コロナ時代のNPO・ボランティア事業の開き方(ぽぽら市民活動大学校)

目的	<p>コロナ禍で事業・活動等の再開が見通せず、地域にとって必要な事業が展開できない団体が多い。 そこで、どのようなことに配慮すれば新型コロナウイルスのリスク軽減を図れるかを専門家から直接聞く機会を設け、事業再開の一助とする。</p>	内容	 <p>会場の様子</p>
内容	<p>・日時:2021年11月4日(水) 13:30~15:00 ・講師:宇都宮協立診療所/千葉大学先進予防医学共同専攻博士課程 千嶋 巖 氏 光プロジェクト株式会社 代表取締役 杉村 卓哉 氏 ・開催方法:会場・オンライン併用 ・参加者:30名</p> <p>・内容: ①感染経路について ②新型コロナウイルスの特徴 ③新型コロナウイルスの検査の特徴 ④事例紹介:コロナ禍での活動の工夫 ⑤質疑応答</p> <p>新型コロナウイルス感染症の特徴を知り、どのような点に留意して対策を取るべきかについて最適解を模索する。</p>	成果・課題	<p>「コロナについて知らないことがまだまだあるなど感じた。改めて、気を付けるべきことが整理できた」との声があった。</p> <p>一方で、「内容的に、NPO活動の団体活動においての具体的な留意点や工夫点を知りたい」との声も出た。感染症対策において押さえておくべきポイントと、活動上の具体的な工夫点について、専門家から直接話を聞く機会を提供でき、その後の活動継続へと導くことが出来た。</p>

(4)NPO担い手育成業務

①-2「ぽ・ぽ・ら出前講座2020」(ぽぽら市民活動大学校)

<p>目的</p>	<p>より多くの県民が社会貢献活動への関心を高め参加する機会を設けるため、多様な講座テーマを設け、地域や団体等からの依頼に応じて、出前で講師を派遣する。 新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、感染防止対策を徹底した上で実施する。</p>	<p>内容</p> <p><開催条件> ①対象：営利を目的とせず公益的・社会的活動を継続的に実施している栃木県内のNPO、ボランティア団体、自治会等の団体 ②定員：概ね10名以上～20名未満(ボランティア団体やNPO法人等の集会などが対象) ③時間：午前10時から午後8時30分まで。 1講座60～90分 ④回数：年10講座まで。月2講座まで。 ⑤場所：栃木県内各市町 ⑥費用：講師の派遣費用や資料代は無料。 会場に係る費用は申込者負担。</p>																		
<p>内容</p>	<p>「ぽ・ぽ・ら出前講座2020～コロナに負けない つなぐ人づくり」の応募を2020年9月から開始し、9講座を実施、延べ325名が参加した。詳細は別添一覧のとおり。</p> <p><講座メニュー></p> <table border="1" data-bbox="225 786 915 1315"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>講座名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>NPO入門、NPO法人運営の基礎</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>会計の基礎</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>労務の基礎</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>コロナ禍でのNPO等支援制度</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>協働のコツ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>オンライン会議の開き方</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ボランティア入門</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>地域活性化のための取組サポート</td> </tr> </tbody> </table>	No	講座名	1	NPO入門、NPO法人運営の基礎	2	会計の基礎	3	労務の基礎	4	コロナ禍でのNPO等支援制度	5	協働のコツ	6	オンライン会議の開き方	7	ボランティア入門	8	地域活性化のための取組サポート	<p>成果・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人やボランティア団体向けに広報を行ったところ、予定枠を超える応募があり、出前講座のニーズは非常に高いことが分かった。 ・主催者側は1団体につき1講座を予定したが、団体からは複数の講座を実施してほしいとの要望が多く、体系的に学びたい意向が強いため、次年度は開催条件を工夫したい。 ・県民文化課と調整の上、公民館向けの出前講座も検討したい。
No	講座名																			
1	NPO入門、NPO法人運営の基礎																			
2	会計の基礎																			
3	労務の基礎																			
4	コロナ禍でのNPO等支援制度																			
5	協働のコツ																			
6	オンライン会議の開き方																			
7	ボランティア入門																			
8	地域活性化のための取組サポート																			

(4)NPO担い手育成業務

①-2「ぽ・ぽ・ら出前講座2020」の実施一覧

No	実施日	講座名	団体名	参加者数
1	2020年 10/12(月)	ボランティア・NPO・市民グループ ネットワーク研修交流会	那須烏山市社会福祉協議会	30
2	10/15(木)	NPOマネジメント講座	足利市民活動センター	8
3	11/12(木)	オンライン会議の開き方入門	NPO法人和音	5
4	11/16(月)	オンライン会議の開き方入門	栃木県身体障害者福祉会連合会	20
5	12/04(金)	緑化ボランティア養成講座	宇都宮市	20
6	12/14(月)	多様な主体による協働	帝京大学	10
7	12/23(水)	NPO法人ボランティア講座	NPO法人植野たすけあい	50
8	2021年 1/13(水)	地域福祉論	白鷗大学	150
9	2/15(月)	宇宙一の授業 職業人講和	矢板中学校	32
10	1/13(水)	手編みいちごクリーナー作り	栃木県社会福祉協議会	延期
11	1/14(木)	会計の基礎	NPO法人レインボー	延期
12	1.21(木)	YOUがおDEコラボ仲間たちの集い	下野市生涯学習センター	延期
13	1.28(木)	手編みいちごクリーナー作り	栃木県社会福祉協議会	延期
合 計				325

(4) NPO担い手育成業務

①-2 ぽ・ぽ・ら出前講座2020 (ぽぽら市民活動大学校)



オンライン会議の開き方(NPO法人和音)



ボランティア講座(NPO法人植野たすけあい)



宇宙1の職業人講和(矢板中学校)

(4)NPO担い手育成業務

①-3「NPO等への専門家派遣」(ぽぽら市民活動大学校)

<p>目的</p>	<p>社会貢献活動団体等が、新たに実施する取組内容に際して、専門的知識や実践経験を有する者による助言等の支援を行い、当該団体等の活動を一層促進することにより、地域における課題解決のために自立して活動できる人材育成につなげる。</p>	
<p>内容</p>	<p>団体等が新たな取組を実施するに当たって専門家を派遣する。団体等が抱える課題等(資金調達方法、計画立案、広報等)について、専門家による助言・提案等により解決をサポートする。</p> <p>①対象となる団体等 栃木県内のNPO、ボランティア団体、自治会等の団体(法人格の有無は問わない)</p> <p>②対象となる取組 原則として、新規又は既存の取組を拡充して行われるものであること。</p> <p>③派遣団体数・派遣回数 ・派遣する団体等:最大3団体まで ・団体が取り組む取組内容や要望等に応じて、その分野の専門的知識や実践経験を有する専門家を選定。 ・派遣回数:1団体当たり3回まで(1回当たり2時間)</p>	<p>内容</p> <p><「あいだっこ」への派遣概要> 現在、足利市移住・定住相談センター業務を行っている地域おこし協力隊等の団体が、法人化して業務を継続発展させていくに当たって助言等を行った。</p> <p>①派遣先団体名 足利市移住・定住センターAidacco(あいだっこ)</p> <p>②専門家名 一般社団法人とちぎ市民協働研究会 専務理事 土崎 雄祐氏</p> <p>③派遣日及び会場 ・2021年2月25日(木)足利市移住・定住相談センター ・2021年3月25日(木)足利市移住・定住相談センター</p> <p>④助言内容等 ・「あいだっこ」の活動計画及び課題等 ・法人格の違い、法人運営ノウハウ等</p>
		<p>成果・課題</p> <p>・「あいだっこ」への派遣については、専門家による助言に合わせてスタッフが積極的に関わることで、細かな部分の支援を行うことができた。 ・団体が自立して活動していけるような助言に努めた。 ・今年度からの新規事業であり、出前講座の一環で開始したが、十分に周知が図れなかった。次年度は、公募も併せて実施したい。</p>

(4) NPO担い手育成業務

①-3 NPO等への専門家派遣

足利市移住・定住相談センターAidacco



専門家からの助言等



(4)NPO担い手育成業務

②先進事例調査、研修参加

月 日	事業名	主 催
4/23(木)	CIS説明会	呼びかけ人
5/15(金)	地方創生臨時交付金説明会(オンライン)	シーズ
5/15(金)	CIS指定管理制度分科会(オンライン)	呼びかけ人
5/25(月)	赤い羽根共同募金会助成金オンライン説明会	まちぴあ
5/27(水)	総会開催・支援施策等セミナー	認定NPO法人 シーズ・市民活動を支える制度をつくる会
6/16(火)	栃木県内中間支援スタッフ有志による「コロナ禍の情報共有」	NPO法人宇都宮まちづくり市民工房
6/18(木)	今のうちに！災害ボランティアコーディネーション集中講義！ #1	日本ボランティアコーディネーター協会(JVCA)
6/25(木)	今のうちに！災害ボランティアコーディネーション集中講義！ #2	日本ボランティアコーディネーター協会(JVCA)
7/1(水)	今のうちに！災害ボランティアコーディネーション集中講義！ #3	日本ボランティアコーディネーター協会(JVCA)
7/27(月)	災害ボランティアネットワーク会議	栃木県社会福祉協議会
8/21(金)	第1回働き方改革推進リーダー養成講座	栃木県労働政策課
8/25(火)	「NPOのための事業戦略づくり基礎」講座	NPOサポートセンター
9/13(日)	「コロナ禍時代を生き抜くヒント」	公益財団法人 セブン-イレブン記念財団

(4)NPO担い手育成業務

②先進事例調査・研修参加

月 日	事業名	主 催
9/25(金)	NPOと行政の対話を促進するための連続講座 第一回	認定特定非営利活動法人日本NPOセンター
9/25(金)	第2回働き方改革推進リーダー養成講座	栃木県労働政策課
10/2(金)	NPOと行政の対話を促進するための連続講座 第二回	認定特定非営利活動法人日本NPOセンター
10/4(日)	NPOの資金調達まるわかりセミナー	NPO法人エコネット近畿ほか2法人
10/16(金)	NPOと行政の対話を促進するための連続講座 第三回	認定特定非営利活動法人日本NPOセンター
10/23(金)	第3回働き方改革推進リーダー養成講座	栃木県労働政策課
11/6(金)	官民の被災者支援主体間の連携推進のための中核人材研修	内閣府
11/9(月)	NPO業務のIT化に補助金を活用「中小企業デジタル化応援隊事業」 NPO向け説明会	NPO法人 NPOサポートセンター
11/27(金)	第5回働き方改革推進リーダー養成講座	栃木県労働政策課
11/30(月)	官民の被災者支援主体間の連携推進のための中核人材研修	内閣府
12/4(金)	第3回コミュニティカレッジ	栃木県コミュニティ協会
12/18(金)	とちぎ災害時三者連携自主勉協会	認定NPO法人 とちぎボランティアネットワーク

(4)NPO担い手育成業務

②先進事例調査・研修参加

月 日	事業名	主 催
1/15(金)	第4回コミュニティカレッジ	栃木県コミュニティ協会
1/20(水)	官民の被災者支援主体間の連携推進のための 中核人材研修	内閣府
2/3(水)	令和2年度災害4in栃木	栃木県・一般財団法人地域社会ライフプラン協会
2/7(日)	NPO事務力セミナー&検定	NPO事務支援カンファレンス
2/12(金) 2/13(土)	市民社会をつくるボランタリーフォーラム	東京ボランティア・市民活動センター
2/15(月)	官民の被災者支援主体間の連携推進のための 中核人材研修	内閣府
2/17(水)	ボランティアコーディネーションセミナー(企業編)	栃木県社協
2/23(火) 2/27(土) 2/28(日)	市民の参加と協働を 実践研究集会2021	JVCA

(4)NPO担い手育成業務：「ボランティア参加拡大プロジェクト」

- 目 的: 社会貢献活動に関心を持つ者、参加する者の裾野拡大
- 成果と課題: 公民館等と連携して、「ボランティア参加拡大プロジェクト」を実施予定だったが、参集型は難しく今期は延期した。一方、自宅でも活動できるプログラムである、「とちぎ国体・全国障害者スポーツ大会いちご一会ボランティアプロジェクト」については、感染症対策を行いながら、実施できた。

(5) 市町市民活動支援センター支援業務

(5) 市町市民活動支援センター支援業務

<p>目的</p>	<p>地域における中間支援の担い手である市町センターの機能向上により、県の中間支援環境の充実、強化を図る。</p>	
<p>内容</p>	<p>①市町センターとの連携 センター間の課題の共有や意見交換を通し、相互交流の推進、ネットワーク構築を図る。コロナ禍のため、直接的交流は抑制的となったが、市町センターへのコロナ関連情報の発信に力を入れた。</p> <p>●中間支援センターネットワーク会議 日 時：2020年7月1日(水)10:00～11:30 会 場：オンライン/ぽ・ぽ・ら 参加人数：17名 内 容：市町センター、県社協、県総合教育センター、Vネット、県、ぽ・ぽ・らによる意見交換。</p> <p>●中堅スタッフ向けスキルアップ研修の実施 「コロナ時代の事業の開き方」セミナー(再掲) 日 時：2020年11月4日(水)13:30～ 市民活動におけるコロナ対策について専門家から意見を聞き、市民活動及びセンター運営に反映した。</p> <p>●市町支援センターへの人的支援 「かぬま市民活動広場ふらっと」の主要職員の傷病による人員不足に対して、7月期週1回職員を派遣し対応した。</p>	<p>②定期訪問・事業の共同実施等によるノウハウ提供 定期訪問により、地域課題の把握、取組についてともに学び、意見交換し、ぽぽらの運営に反映した。</p> <p>●センター訪問</p> <p>ア) 2020年6月16日(火)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壬生町市民活動支援センター みぶりん ・下野市生涯学習情報センター ・真岡市市民活動支援センター コラボレもおか <p>イ) 2020年6月19日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足利市民活動センター ・佐野市市民活動センター ここねっと ・とちぎ市民活動推進センター くらら ・野木町ボランティア支援センターきらり館 ・小山市市民活動センター おやま～る <p>ウ) 2020年6月27日(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日光市市民活動支援センター ・さくら市市民活動支援センター ・那須塩原市市民活動センター ・かぬま市民活動広場 ふらっと <p>エ) 2020年11月6日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小山市市民活動センター おやま～る <p>オ) 2020年11月18日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かぬま市民活動広場 ふらっと

(5) 市町市民活動支援センター支援業務

●研修、相談会の共同開催(再掲)

ア)「NPOの会計税務及び労務相談会inさくら市」

日 時:2020年9月16日(水)13:30~16:30

会 場:さくら市市民活動支援センター

イ)「NPOの会計税務 及び労務相談会in小山市」

日 時:2021年1月20日(水)13:30~16:30

会 場:小山市市民活動センター

③新設センター未設置市町へのアウトリーチ
情報収集を行った。

④県内外中間支援センターの先進事例調査

市民活動支援センターの機能強化を図るため、福島市の市民活動支援センターの視察及び運営団体等との意見交換を行った。

実施日:2020年12月9日(水)

対象者:市町市民活動担当課・生涯学習担当課職員
及び市民活動支援センター職員等

視察先:福島市市民活動サポートセンター
福島市まちなか交流センター「ふくふる」
ふくしま地域活動団体サポートセンター

参加者:11名



福島市市民活動サポートセンター説明を聞く

内容



福島市まちなか交流センター「ふくふる」の機能について聞く

成果・課題

①中間支援ネットワーク会議は、ぽぽら事業としては初めてオンラインツールを併用して開催した。

コロナ禍のため、担当者会議は実施できなかった。また、対面による事業が無かったため、市町センタースタッフに新規スタッフが入っても、顔つなぎがしきれていない。

④県内外中間支援センターの先進事例調査では、参加者から、「持ち帰って自分たちの事業や活動に活かします」など、前向きな意見が多く聞かれた。県内市町センター間の意見交換や交流促進を図ることも当事業の大きな目的の一つであったが、コロナ禍で制約がありつつも、一定の交流を図ることができた。

(5) 市町市民活動支援センター一支援業務

市町中間支援センターネットワーク会議



Zoomで参加↓



(6) ネットワーク運営業務

(6) ネットワーク運営業務

目的	■ 目的 県内の多様な主体間のネットワークを構築・強化し、社会貢献活動への支援環境の充実を図るとともに、協働の取組を推進する。	内容	内閣府主催 令和2年度 官民の多様な被災者支援主体間の連携促進のための中核(コーディネート)人材育成研修会への参加(再掲)
内容	①「市民活動支援ネットワーク会議」の運営 新型コロナウイルス感染症の拡大があり、実施の形態を模索した。 ②公民館、社会福祉協議会との連携の模索 新型コロナウイルス感染症拡大により連携の機会を作れなかった。 ③県内大学、シルバー大学校等との連携 ・県内大学とは、出前講座や災害支援等を通じて連携を図った。 ・シルバー大学マッチング授業は、新型コロナウイルス感染症により中止となった。 ④災害ボランティア活動に係る連携促進 ・災害ボランティア活動連絡会議の運営支援 第1回災害ボランティア活動連絡会議6月17日(水) 第2回災害ボランティア活動連絡会議10月6日(火) 発災時に備え、情報共有会議HPのリニューアルを検討し速やかな情報発信体制を準備しておく。	成果・課題	コロナウイルス感染症の影響により参集型の事業の開催が、難しくネットワークの維持に苦心した。 災害ボランティアに係る連携推進は、幸いにも大きな災害の発生がなく、情報共有会議が開催されることはなかった。連携に係る全国的な動きの研修等に参加することにより、県及び一部の市町等との情報共有は図れた。 培った情報を、どのように活かし市町村や支援センター等と共有していくのが、今後の課題である。

(7) その他

(7) その他

① 関係機関の委員への就任、職員派遣等

No	月 日	内 容	会 場	主催者
1	2020年 5/19(火)	小山市市民活動センター運営調整会議	書面開催	小山市
2	5/30(土)	認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク総会	オンライン	vネット
3	6/9(火)	たかはら子ども未来基金審査会	Vネット	とちぎコミュニティ基金
4	6/17(水)	第1回災害ボランティア活動連絡会議	ぽ・ぽ・ら オンライン	栃木県県民文化課
5	6/25(木)	栃木県社会福祉協議会評議員会	福祉プラザ	栃木県社会福祉協議会
6	7/2(水)	みやシニア活動センターネットワーク会議	書面開催	みやシニア活動センター
7	7/17(金)	たかはら子ども未来基金審査会	オンライン	とちぎコミュニティ基金
8	8/19(水)	花王ハートポケット基金	オンライン	とちぎコミュニティ基金
9	8/26(水)	労務相談に係る専門家派遣立会い	NPO法人出合いの森管理協会	ぽぼら
10	9/12(金)	たかはら子ども未来基金審査会	宇都宮市中央生涯学習センター	とちぎコミュニティ基金
11	9/29(火)	みんなでまちづくり会議	宇都宮市役所	宇都宮市
12	10/16(金)	とちぎ夢ファーレ実績報告会	オンライン	栃木市
13	11/20(金)	宇都宮市民大学運営協議会	宇都宮市中央生涯学習センター	宇都宮市生涯学習課


(7) その他

① 関係機関の委員への就任、職員派遣等

No	月 日	内 容	会 場	主催者
14	12/23(水)	花王ハートポケット倶楽部審査会	Vネット (当日欠席につき、書面にて参加)	とちぎコミュニティ基金
15	12/24(木)	まちびあ貸しオフィス審査会	宇都宮市まちづくりセンター	宇都宮市まちづくりセンター
16	2021年 1/10(日)	とちぎコープNPO法人助成金審査委員会	(社福)ふれあいコープみどり	とちぎコープ生活協同組合
17	1/15(金)	地域で輝くふくしのチカラ大賞審査会	栃木県庁北別館	栃木県
18	2/8(月)	地域で輝くふくしのチカラ大賞実践フォーラム	栃木県庁本館6F会議室	栃木県
19	2/25(木)	とちぎコープNPO法人助成金審査委員会	(社福)ふれあいコープみどり	とちぎコープ生活協同組合
20	3/3(水)	夢フェアレ1次審査	オンライン	栃木市
21	3/6(土)	夢フェアレ選定委員会	キョクトウ市民交流センター	栃木市
22	3/12(金)	栃木県経済同友会表彰選考委員会	栃木県経済同友会	栃木県経済同友会
23	3/16(火)	栃木県農地水多面的保全推進協議会 総会	オンライン	栃木県農地水多面的保全 推進協議会
24	3/19(金)	とちぎコープNPO法人助成金審査委員会	(社福)ふれあいコープみどり	とちぎコープ生活協同組合
25	3/27(土)	とちぎのミライをつくる大会2021	オンライン&トライ東	とちぎコミュニティ基金

(7)その他

② 寄附文化の醸成のための活動への協力

目的	<p>寄附は、いわば「金銭等によるボランティア」であり、直接ボランティア活動に関われない場合でも、寄附先の団体の社会貢献活動を通して、自らの意志を社会に反映させる手段となる。寄附された金銭等は貴重な活動資金となることから、寄附を「文化」として定着させ、社会貢献活動を県民全体で支える機運を醸成する。</p>	
内容	<p>① とちぎコミュニティ基金事業への協力</p> <ul style="list-style-type: none">●たかはら子ども未来基金<ul style="list-style-type: none">ア) 審査会: 2020年6月9日(火) 内容: 助成部門の審査、表彰事業の検討、学生インターン部門についてイ) 審査会: 2020年7月17日(金) 内容: 学生インターン部門の受入団体の選考ウ) 贈呈式: 2020年9月12日(金) 内容: 学生インターン部門の助成金贈呈エ) 2021年3月27日(土) 内容: 学生インターン部門の報告会●花王ハートポケット倶楽部<ul style="list-style-type: none">ア) 2020年8月19日(水) 内容: 制度の検討	内容  <p>たかはら子ども未来基金贈呈式</p>
		成果・課題 <p>成果としては、「花王ハートポケット倶楽部」の審査時に審査項目を設け、基準を明確にした。</p> <p>課題は「とちぎコミュニティ基金」の各審査委員のエリアにばらつきがあり、審査対象エリアに該当する中間支援センタースタッフに加わってもらう必要性を感じた。</p>

(7)その他

③ 栃木県共同募金会との共同事業の実施

目的	社会福祉法人栃木県共同募金会では、コロナ禍における子供や家族等の支援活動に対して助成を行っている。そこで、社会貢献活動団体の積極的な応募を促進するため、当助成制度についてオンライン説明会を開催する。	内容	③実施事業 ア) 赤い羽根子どもと家族の緊急支援第2回助成金 オンライン説明会 ・日 時:2020年7月22日(水)13:30~14:30 ・会 場:会場・オンライン併用 ・参加者:11名 イ) 赤い羽根子どもと家族の緊急支援第3回助成金 オンライン説明会 ・日 時:2020年9月30日(水)13:30~14:30 ・会 場:会場・オンライン併用 ・参加者:5名
内容	①事業概要 ア)主 催:とちぎボランティアNPOセンター 社会福祉法人 栃木県共同募金会 イ)講 師:社会福祉法人 栃木県共同募金会 主事 粕谷 亜紀氏 ウ)開催方法及び定員 オンライン(ZOOM)参加。リアル参加は5名まで。 エ)役割分担 ・ぽ・ぽ・ら:参加者募集(チラシ作成、周知、取りまとめ)、会場の調整、ZOOM機器等の設定、説明会全体運営 ・共同募金会:参加者募集(周知)、説明会資料の作成講師の派遣等 ②助成金制度の概要 ア)助成対象事業:コロナ禍における地域の子どもと家族をめぐる生活課題や、そこから派生して日常生活に困難を抱える方々を支援する様々な活動 イ)助成対象団体:団体名義の口座を持つ民間非営利団体(法人格の有無は問わない) ウ)助成額:1団体当たり 1万円以上 上限10万円		成果・課題 ・コロナ禍で活動に苦しむ団体にとって、当助成制度は有益な支援策であるため、一つでも多くの団体に活用してほしいと考え、栃木県共同募金会との共催により事業を企画した。 ・専門家相談会に参加した団体にも本説明会への参加を促し、助成決定につなげることが出来た。 ・栃木県共同募金会からも、草の根的な様々な団体活動を知ることが出来たとの言葉をいただいた。 ・本事業実施のノウハウを、ZOOMによる他の講座開催にも活かすことができた。 ・今後も、栃木県共同募金会と連携できる事業があれば、団体等の支援に活かしたい。

(7) その他

③ 栃木県共同募金会との共同事業の実施

第2回助成金オンライン説明会

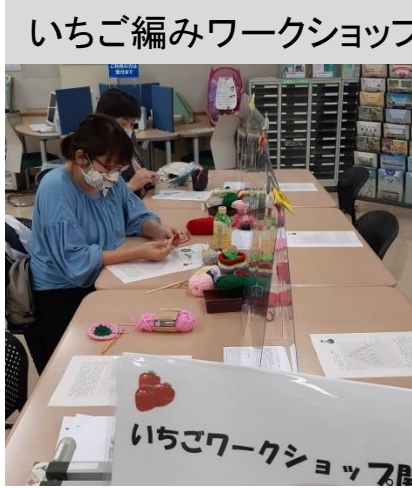



第3回助成金オンライン説明会



(7)その他

④ 他団体、他部局との連携強化事業(国体・障害者スポーツ大会局ほか)

<p>目的</p>	<p>○とちぎ国体・全国障害者スポーツ大会 いちご一会ボランティアプロジェクトの実施 2022年度に開催される「とちぎ国体・全国障害者スポーツ大会」に向けて、特産のいちごをモチーフにした「手編みのいちごクリーナー」を県民から広く募集し、大会開催時に来訪者に配布して、エコとおもてなしの心を持ち帰ってもらう。県民の社会貢献活動参加意欲の向上、県全体で大会を盛り上げる機運醸成に資する。</p>	<p>※左記のほか、栃木県社会福祉協議会から出前講座の依頼があったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により延期となった。</p> <p style="text-align: center;">手編みのいちごクリーナー</p>
<p>内容</p>	<p>①いちごクリーナーの寄附募集 ・目標数 500個/年→実績 550個、累計 3,844個 ・主な協力団体:那須塩原市市民活動センター、とちぎ市民活動推進センター、日光市在宅介護オアシス支援施設あおぞら、栃木県シルバー大学校、栃木県女性団体連絡協議会、全国要約筆記問題研究会、中途失聴・難聴の会「とちの葉」、香藍会ほか</p> <p>②いちご編みワークショップの実施 ぽ・ぽ・らにおいて、概ね月1回のワークショップを予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止したため、4回の実施となった。 ①2020年10月14日(木)13:30~15:00 1名参加 ②2020年11月12日(木)13:30~15:00 1名参加 ③2020年12月11日(金)13:30~15:00 1名参加 ④2021年3月11日(金)13:30~15:00 1名参加</p>	<p>内容</p> <p style="text-align: center;">いちご編みワークショップ</p>   <p>※このほか、「いちご王国プロモーション」事業への協賛を行った。(2021年2月9日~3月31日)</p>
		<p>成果・課題</p> <p>・いちごクリーナーの寄附数は目標の3.8倍となった。 ・寄附への協力は、社会貢献活動団体や介護支援施設、地域の自治会等、他団体での自主的な取組にも広がっている。</p>

(7)その他

⑤ 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策

目的	新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、国や県、市町との連携のもと、施設の感染防止対策を講じ、利用者の感染防止策を徹底するとともに、県内社会貢献活動団体の支援に努める。	
内容	<p>(1) 情報収集・発信</p> <p>① アンケート実施(詳細別紙参照)</p> <p>目的: 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、栃木県内の社会貢献活動団体がどのような影響を受けたのかを把握し、今後の支援につなげる。</p> <p><第1回></p> <p>実施期間: 2020年4月25日(土)～5月7日(木)</p> <p>対象団体: 栃木県内のNPO法人・社会貢献活動団体</p> <p>有効回答数: 72件</p> <p><第2回> ※ CIS全国アンケートと連動</p> <p>調査期間: 2020年8月1日(土)～8月14日(金)</p> <p>対象団体: 栃木県内のNPO法人・社会貢献活動団体</p> <p>有効回答数: 129件</p> <p>② コロナ関連の情報発信</p> <p>ア) ホームページへの掲載</p> <p>・「NPO等のための新型コロナウイルス感染症対策まとめサイト(リーグHP)」へのリンク掲載</p>	内容

- ・「新型コロナウイルス感染症 NPO等向け市町の協力金・支援金等情報まとめサイト」の掲載
- ・「NPO法人等が活用できる主な制度の紹介」資料の掲載
- イ) 館内掲示
- ・「NPO法人等が活用できる主な制度の紹介」の館内掲示
- ウ) 動画配信
- ・NPO等のための新型コロナウイルス感染症対策制度概要配信
- エ) 情報誌「ぽぽらマガジン」30号の発行
- 特集: コロナ禍における社会貢献活動を探る
- オ) メルマガ臨時号により最新情報を発信
- ③ 相談対応
- ・新型コロナウイルス感染症に係る「困りごと相談」窓口の設置: 2020年5月30日(土)～現在
- ④ 「新型コロナウイルス」NPO支援組織社会連帯(CIS)への参加・連携
- ・CIS全体会議(オンライン)への参加: 6回
- ※詳細は別表
- ・CIS全国アンケートへの協力、第2回アンケート結果の提供

(7)その他

⑤ 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策

内容	<p>⑤市町中間支援センターの対応状況の聴取及び集約結果の提供 2020年2月28日(金)～6月3日(水) 7回実施</p> <p>(2)施設運営・受付対応</p> <p>①国の緊急事態宣言に伴う休館及び電話相談 2020年4月18日(土)～5月10日(日)</p> <p>②新型コロナウイルス感染拡大防止対策</p> <ul style="list-style-type: none">・ガイドライン・チェックシート作成・運用・パーテーションの設置、研修室等の定員削減・来館者名簿の作成・管理、机椅子等の消毒 <p>(3)職員の服務等</p> <p>①「感染又は感染のおそれのある職員の就業禁止」取扱方針の決定</p> <p>②「在宅勤務取扱内規」の制定</p> <p>③交替制で在宅勤務を実施 2020年4月16日(木)～5月28日(木)</p>	内容
----	---	----

(7) その他

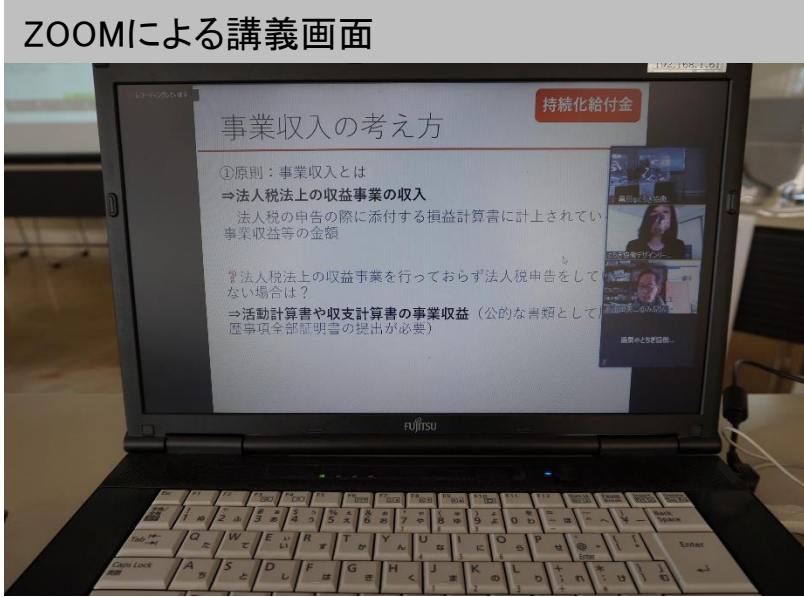
※「新型コロナウイルス」NPO支援組織社会連帯(CIS)への参加・連携等

月 日	事業名	主 催
4/23(木)	CIS説明会	呼びかけ人
5/8(金)	第2回CIS全体会議(オンライン)	呼びかけ人
5/15(金)	CIS指定管理制度分科会(オンライン)	呼びかけ人
6/5(金)	第3回CIS全体会議(オンライン)	CIS(新型コロナウイルスNPO支援組織社会連帯)
6/16(火)	栃木県内中間支援スタッフ有志による「コロナ禍の情報共有」	NPO法人宇都宮まちづくり市民工房
7/3(金)	第4回CIS全体会議(オンライン)	CIS(新型コロナウイルスNPO支援組織社会連帯)
8/7(金)	第5回CIS全体会議(オンライン)	CIS(新型コロナウイルスNPO支援組織社会連帯)
9/4(金)	第6回CIS全体会議(オンライン)	CIS(新型コロナウイルスNPO支援組織社会連帯)
10/2(金)	第7回CIS全体会議(オンライン)	CIS(新型コロナウイルスNPO支援組織社会連帯)
11/6(金)	第8回CIS全体会議(オンライン)	CIS(新型コロナウイルスNPO支援組織社会連帯)
12/4(金)	第9回CIS全体会議(オンライン)	CIS(新型コロナウイルスNPO支援組織社会連帯)
1/8(金)	第10回CIS全体会議(オンライン)	CIS(新型コロナウイルスNPO支援組織社会連帯)
2/5(金)	第11回CIS全体会議(オンライン)	CIS(新型コロナウイルスNPO支援組織社会連帯)

2 NPO法人 とちぎ協働デザインリーグ事業

(1) 新型コロナウイルス感染症対策の検討・実施

NPO資金戦略実践セミナー(赤い羽根緊急助成)

目的	<p>国や県・市町においてコロナ対策の各種支援制度が次々と創設され、内容の充実が図られる中、とちぎボランティアNPOセンター「ぽ・ぽ・ら」が実施したアンケート結果によると、NPO法人等自身が対象となる給付金等に気づいていない状況が見られた。そこで、より多くの団体に支援の手が届くようにするため、主な支援制度についてのセミナーを開催する。</p>	内容	<p>ZOOMによる講義画面</p> 
内容	<ol style="list-style-type: none">①事業名:NPO資金戦略実践セミナー 「コロナ対策の支援制度を見直そう！」②日時:2020年11月14日(土)10:00~11:30③会場:会場・オンライン併用④講師:NPO法人とちぎ協働デザインリーグ コーディネーター(中小企業診断士)山下典江⑤紹介した支援制度 持続化給付金、家賃支援給付金、小規模事業者持続化補助金、中小企業デジタル化応援隊事業⑥参加者数:11名⑦質疑応答 持続化給付金等の具体的な申請方法について質疑応答があった。⑧動画配信による情報発信 さらに多くの団体に支援制度を周知するため、本セミナーの動画をリーグホームページで配信している。	成果・課題	<ul style="list-style-type: none">・本助成により、多くの人々からの寄附を、コロナ禍で頑張っている社会貢献活動団体の支援に活かすことができた。・参加者へのアンケート結果によると、内容について概ね「満足」との回答が得られた。・また、「持続化給付金に申請予定」や「コロナ蔓延期におけるNPO法人の総会のあり方を取り上げてほしい」、「もう少し早い時期の開催でも良かった」等の声もみられ、今後とも迅速に対応する必要がある。

(2)講師派遣事業
実績なし

(3)リーグ情報発信(SNS,ホームページ等)

①リーグホームページ

新型コロナウイルス感染症対策として、HP上にページを追加し、適切な情報発信を行った。



②リーグファイル

リーグファイルNo.27、No.28を発行した。

(4)職員研修

新型コロナウイルス感染症対応やスタッフの資質向上を図るため、各種会議・研修等に積極的に参加した。
※詳細は前述一覧表のとおり

(5)法人運営

①常任理事会の開催:8回(1月は中止)

2020年5月22日(金)、7月17日(金)、
8月18日(火)、9月24日(木)、10月13日(火)、
11月10日(火)、12月10日(木)、
2021年2月26日(金)

②理事会・総会の開催

ア)第1回理事会・総会:2020年6月25日(木)

- ・2019年度事業報告・決算報告
- ・2020年度事業計画(案)・活動予算書(案)
- ・役員改選(案)
- ・就業規則の一部改正(案)

イ)第2回理事会:2020年7月17日(金)

- ・役員改選(案)

ウ)第3回理事会:2020年10月27日(火)

- ・2020年度上期事業報告・下期事業計画(案)
- ・主たる事務所の移転

エ)第4回理事会:2021年3月16日(火)

- ・2021年度事業計画(案)・予算(案)

内容

成果・課題

- ・「コロナ対策お役立ちサイト」をリーグホームページに掲載するなど、ぽぽら事業と連携して新型コロナウイルス感染症対策に取り組んだ。
- ・赤い羽根緊急助成金の活用により、コロナで活動が困難になっている団体の支援に活かすことができた。
- ・常任理事会を定期的開催し意見を交わしたが、役員全体が一堂に会する機会が減少し、連携が十分とはいえなかった。